

# 週報

今月のテーマ 平和構築と紛争予防月間

第1605回例会 2020年2月13日 Vol.34/No.30

## ■本日の例会 / 第1606回 令和2年2月20日(木)

- 会長・幹事報告
- 各委員会報告
- 会員卓話・平松 寛 会員 坂本弘史 会員
- ハッピーの紹介
- 本日の出席状況

## 【出席率状況報告】

- ・会員数…………… 54名
- ・出席者…………… 44名
- ・欠席者…………… 10名
- ・出席率…………… 81.48%
- ・1/30の修正出席率… 68.52%

## ■会長挨拶

篠原英介 会長



### 出会いと別れ

私これまでの人生でそれなりに  
出会いと別れを経験してきました。  
誕生もあれば死別もありました。  
そのうちの25年前の親友との別

れを切っ掛けにある考え方に至りました。

学生時代のほとんどを一緒に過ごしたI君が急死したのです。友人から訃報を聞いた翌日、私の元にI君からの年賀状が届きました。当時、生まれたばかりの娘を載せた私からの年賀状の返信でした。

文字を見た瞬間にI君からだとすぐに判りました。「娘さんが生まれたなんてビックリしたぜ!」I君らしいメッセージで、日付は他界した当日のものでした。深い悲しみの中、届いた驚きとともにパッと次の事が浮かんできました。

「自分にとって大事な人が出来ると大事な人を失う…」順序が入れ替わることもあります。振り返ってみると、祖母が亡くなった頃従妹に子供が生まれました。その従妹の親が亡くなった頃、別の従妹に子供が生まれました。義理の母が亡くなると、実弟に息子が生まれました。まさにこの繰り返しです。

自分を中央に置くと親族・親類・友人・知人とのおおよその均衡が保たれているものだなと、妙に納得できるものです。

しかしながら、なにも生死だけではありません。私たちはロータリークラブにしても然り、数多くの人と繋がっています。深い浅い・長い短いなどその付き合いに差はありますが、常に目の前の方との関係を大切にしたいと考えています。

一方で、ある説によると普通の人は同時に付き合える人数が200~300名ほどだそうです。やはり、多くなると疎遠になる人も出てきてしまうそうなのです。

私は、そうなるのは自然の摂理だと考え、今日の

前にいる人との関係を大切に、久しぶりに再会した人があれば、またそこで旧交を温めれば良いのだ、と考えて来ました。これは「一期一会」とは少し違った捉え方だと思っています。みなさんはいかがですか?

## ■幹事報告

江口健一 幹事



日向ロータリークラブ 60周年  
記念式典の案内が来ております  
令和2年4月25日(土) ステアーズ・オブ・ザ・シーにて開催です

鹿屋ロータリークラブ

井ノ上 繁 様 (RI 第2730地区 1999~2000年度ガバナー)

かねてより病氣療養を続けておられましたが 令和2年2月11日 享年95歳にてご逝去されましたのでお知らせ致します。心より御冥福をお祈り致します。

## ■ガバナー補佐挨拶

上田 普 ガバナー補佐



こんにちは。会長、幹事様をはじめ、会員の皆様には大変お忙しい毎日をお過ごしと思います。

昨年11月14日、ガバナー公式訪問ではお世話になりました。

会長、幹事主導の下、立派にクラブ運営が行なわれております事にガバナーもさぞかし満足されたのではないのでしょうか。

ガバナーの人となりともご理解いただけたのではないかと思います。

程良い緊張感の中にあたたかい親睦があったと思います。ありがとうございました。

さて、今後の活動でございますが、本年度も「ロー

タリーデー」を開催致します。

まずはロータリーデーのご説明を致します。

ロータリーの活動を多くの人に知ってもらうため、昨年のバリーラシンRI会長より、楽しくて情報豊かな行事を「ロータリーデー」と銘打ち開催するように全世界のクラブと地区に呼びかけられたのです。

そのことにより、川原パストガバナーの強いお気持ちもありまして開催されたのであります。

今年度も喜島ガバナーより開催の依頼がありましたので昨年同様、鹿児島、宮崎に分かれまして行います。

昨年はメインテーマとして「外国人雇用について」詳しくお話いただきました。

外国人雇用の利点、問題点など現場の状況がよく理解出来まして、職業人の集まりでありますロータリーの行事としてふさわしい「ロータリーデー」であったと思います。今年は昨年とはかなり異なる「ロータリーデー」であります。海岸の清掃でありますから、目新しい事ではありません。他の団体も行なっていますし、個人でされている方もいらっしゃいます。

しかし以前から官民一体となって自然環境保護に力を注いでいるにもかかわらず、海山川には人間が作り出したゴミが散乱しています。

このことは残念ながら地球環境保全について多くの人が疎いという事、そして関心が薄いという事があります。地球環境保全はロータリーの一つの大きな目的でもあります。私達ロータリアンはこれから生きる人々へ、そして子や孫に自然あふれた素晴らしい宮崎をバトンタッチしたい。その思いであり責任があります。

私達ロータリアンが清掃活動2時間して環境が大きく良くなる訳ではありませんが、人々に環境保全の大切さ、重要性を伝える事ができ、一人でも多くの人に関心を持ってもらい、自然豊かな地球、そして宮崎に思いをはせてもらえるきっかけとなれば良いと思います。そうであれば宮崎は今より良い環境になると思います。マスメディアのお力もお借りし、広く告知に努めたいと思います。ロータリー活動のほんの一端であります。知ってもらえれば良いと思います。

それも「ロータリーデー」の意義ある事と思います。

## ■会員卓話

佐々木 究 会員



白内障手術で用いる眼内レンズには、単焦点と多焦点の2種類があります。単焦点レンズは保険適応で、遠方にピントを合わせると手元の小さな文字を見る時には老眼鏡が必要になり、手元にピントを合わせるとテレビを見る時やゴルフの際は眼鏡が必要です。多焦点レンズは遠方から手元まで眼鏡なしで見ることができます。多焦点レンズは保険非適応で、レンズ代は自費になります。多焦点レンズの欠点は夜間、車のライトをまぶしく感じたり、光の周辺に輪がかかって見えたりします。時間とともに慣れてくるようです。また単焦点レンズに比べややピントがあまい傾向があります。私の医院では100人中、単焦点レンズが85人、残り15人が多焦点レンズを選んでます。最近では多焦点レンズを選ぶ人が少しずつ多くなってきています。

多焦点レンズを用いた白内障手術のようにレンズ代は自費で、薬・検査・手術は保険適応となることを混合診療といいます。日本では長い間、混合診療はお金で命や健康に差をつけるということで禁じられていましたが、10年前より先進医療、選択療養といった名目で徐々に解禁されています。歯科では以前より歯のかぶせものやインプラントでは混合診療が認められています。わたしはお金で医療に差をつけてはいけないという教育を受けてきたので混合診療に抵抗感があります。しかし世界に目を向けると事情は異なります。欧米ではお金のある人は民間の医療保険に入り、民間の医療機関で快適で高度な医療を受けるというのが普通に行われています。世界各国の公的医療保険はその国の歴史や国民性を反映しています。アメリカでは西部開拓時代の自分の身は自分で守るという伝統が生きています。ヨーロッパは貴族文化の名残である階級社会の影響があります。日本は単一民族で自然災害も多いことから、日本の皆保険制度の根底には助け合いの精神があります。縄文時代の遺跡から発掘された人骨には、足が骨折してそれが自然治癒し、その後も長い間生存していた痕跡があります。このことは骨折で動くことができなかつた人を見捨てることなく、集落の人たちが介護をしていたことがうかがえます。現在の国民健康保険も約100年前に、東北の貧しい山村の人たちが病気になったときに医療が受けられるように、お金を出しあつて組合を作ったのが始まりです。

今後も命や失明にかかわる基本的な領域は皆保険制度がカバーするでしょう。しかしひっ迫した国の財政を考えると快適性、プレミアムの部分に混合診療が入ってくるのはやむを得ないと考えています。